



第6回 若者会議 開催報告

- ・ 今までの活動を振り返り、各グループの実施事業について発表しよう。
- ・ 2年間の活動で培った経験を通して町長へ事業提案しよう。
- ・ 若者会議でつながったそれぞれのメンバーの今後の活動を考えよう。

■ 日 時：平成30年1月13日（土）10：00～12：00

■ 場 所：東員町総合文化センター 2階展示室

■ 参加者：若者会議メンバー、町長、アドバイザー山田桂一郎氏、町職員

「中部公園の活用」グループの発表

ワークショップやアンケート調査、マーケットインに基づくカフェを展開。延べ10日間の活動、グループ会議を34回開催した。

カフェの出店に関し、メニューは『健康』に配慮した。トランス脂肪酸不使用のコーヒーフレッシュや、合成着色料不使用のかき氷シロップにこだわり選定。メニュー案内については、利用者にとってわかりやすいものであったかという点が不十分であった。

ロケットストーブに関しては、今後もワークショップや販売を行い、防災イベントや他者とのコラボレーションも考えている。ロケットストーブづくりワークショップで好評だった豚汁についても町内産にこだわり展開していけるとよいのではないかと考えている。

また、中部公園内の河川広場の活用がうまくできていないように感じるので、町民の手による公園づくりを提案する。

今までの活動については、みんなで助け合いながら楽しく活動できたと思うが、家族や仕事との兼ね合い、スケジュール調整が難しかった面もある。

今後活動するにあたっては、目的意識を継続すること、法規制や資金調達などを含む様々な知識を身に付けること、多くの仲間が必要ではないかと感じた。

【メンバー感想】

- ・ 初めてのことは、そうそう上手いいかない。もっと要領よく出来ればと思うところもあった。
- ・ 休日を活動日とすることが多かったが、家族行事とすることであまり負担となることはなかった。
- ・ 役場が管理している施設を使うため、規制が多いと感じた。申請などについてももっと簡単になればいいと思う。
- ・ このメンバーだったので楽しく最後まで活動することができたと思う。子ども連れでも受け入れてくれる場だったのでよかった。

「名物づくり」グループの発表

立案、廃案を繰り返し、その中で東員町の陸上競技場の夜間を利用した『Toin Night RUN』が具体化されたが、資金面や夜間使用の面で断念。原点に立ち戻り東員町グッズの制作・販売にいたった。

新たに名物を生み出すのではなく、今ここにあるものに稼ぐ・健康・活躍のエッセンスを付加し、本物の名物にしようと考え、今回は『こども歌舞伎』に注目。歌舞伎フェイスパックと伝統文化シリーズのジャポニカ学習帳に『東員町こども歌舞伎』のシールを貼り販売することとなった。

東員町コスモス祭、東員町商工祭、東員町発ミュージカル、東員日本の第九と計4つのイベントに出店し販売。爆発的な売上ではなかったが、好評であった。しかし、企画制作が遅れたため、十分な販売機会・認知を得られることができなかったこと、高付加価値にする工夫が足りなかったなど反省点も多い。

提案としては、東員町グッズのシリーズ化、来年の干支『猪』にちなんだ猪名部神社とのコラボレーションなどが考えられる。その際は、東員町だけでなく『三重県員弁郡』の記載も必要である。

また、若い世代が活躍するためには、こういった取り組みに積極的に参加できる仲間、気軽に立ち寄れる開かれた場所が必要であると共に、『まず動く』そしてみんなが楽しむことが必要であると感じた。

【メンバー感想】

- ・片方のグループは計画から実行に移っているのに自分たちのグループは計画から先に進まず苦しい時期が長かった。
- ・計画は進まないが会議の回数だけ重ねる苦しい時期を抜けるため、メンバーの1人はナイトランを実施している岡山まで視察に行ってもらったり、会議の場所を変えたり計画から次に移すために必死だった。
- ・若者会議と観光振興会のメンバーという二足のわらじはスケジュール調整など大変だったが、観光振興会のイベントに若者会議が出店したり、観光振興会と若者会議で一緒に出店したりコラボできたことは良かった点です。
- ・自分の仕事と両立させながら会議に参加していたがどうしても出席できないときがあった。常に出られる人、そうでない人と役割分担して全体を支えていくことが必要だと思った。
- ・若者に限らず、そこに行けば誰かがいて、仕事帰りなどにふらっと寄れて、こういった取り組みの話し合いが出来るたまり場のような場所があったら良いなと思った。



【参加者の主なコメント】

<p>町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからも是非自主活動を行ってほしい。自ら考え、町を盛り上げて行ってほしい。 ・ 何かを成すには過程が必要。挫折や空気が重い時期があったことも結果的にはよかったのではないか。これからの活動が大切。 ・ 町では毎年防災訓練を行っている。その際にロケットストーブを使って活動してはどうか。 ・ 豚汁作りについては、食材の調達などシグマファームと連携してはどうか。 ・ 河川広場の利活用に文化イベントができないかと考えている。 ・ 今後の活動には人脈が大切であると思う。我々を利用してほしい。 ・ 自由に集まれる場は必要だと思う。しかし、行政がつくるものなのかと考えているところである。
<p>山田桂一郎氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者会議のように有志の方が集まって成功している事例としては、まずは自分たちが楽しいことをしようとして活動が始まり次第に、楽しいだけで良いのかと思うようになり、楽しいことに加え活動に目標ができる。その次のステップとして仲間づくりに進んでいるところは上手くいっている。 ・ 『稼ぐ』を前提に活動しないと活性化していかない。 ・ 若者会議のような活動がはじまると、『集まれる場が大事』というワードはどこでも出る。場も大事だが、次のステップ、次の世代へどう繋ぐのか。残し方を考えてほしい。 ・ 「中部公園の活用」、「名物をつくる」ということが目的ではない。そもそも「何のため」、「誰のため」に活動するのか4月以降に向けてどう残していくのか考えていくことが大事。 ・ 自分の頭で考え続けることが大切。 ・ 今後メンバーを集めるとなったとき、ビジネス色が強いと集まりづらい。また、テーマを絞り過ぎないこと。 ・ シンクタンクとドゥータンクというスタイルのように既存の事業者との協力も必要。 ・ 町内にないものを作り出そうとするとお金がかかる。 ・ 名人・達人リストなどがあると活動しやすくなる。 ・ 多くのグループができあがっても、個々で動いてはいけない。必ず重なり合うところがあるはず。 ・ 人の繋がりも大切。しかし、全員参加はありえないので協力してくれない人がいても仕方がない。 ・ トライアンドエラーは良いこと。そのとき継続的な価値を見つけること。

